

ナギジリ 2 号古墳 調査概要

■ ナギジリ 2 号古墳とは

土曾川の中流域に点在している古墳のうちの一つです。1997年に飯田市教育委員会によって調査されたナギジリ 1 号古墳の南東に位置しています。

1955年に刊行された『下伊那史』は、ナギジリ 2 号古墳について、1 号古墳の南 66mを隔てた道下の水田の隅に存在した円墳で、現存しないが、その位置から多数の須恵器が掘り出された、と記しており、この頃には既に後世の造成土で埋められ、その姿は見えなくなっていたようです。

しかし、地権者の方が父親から聞いたという位置情報をもとに、その場所を重機によって掘り下げたところ、地表から 30 cmにも達しない深さで古墳の天井石に当たりました。その後、重機や人力での作業を進め、ナギジリ 2 号古墳の全貌が明らかになってきました。

墳丘の盛り土は後世の造成の影響で崩れていますが、直径約 14mの円形の古墳であったと推測されます。遺体を埋葬する部屋である石室（せきしつ）は、墳丘の南側に入口を設ける横穴式石室で、長さ 7m、幅 2.1m、入口幅 1.4m、高さ 2mを測り、床面には石が敷かれていることが判明しました。入口には閉塞石（へいそくせき：入口を塞ぐための石）も残っており、墳丘の周囲には幅 3mほどの周溝が巡らされています。現段階では周溝は東側部分しか確認できていませんが、今後の調査で西側にも痕跡が見つかるかもしれません。



検出当初の石室（奥に見える巨大な石が天井石）



石室の全景



『古事記』に出てくるイザナギとイザナミの物語を知っていますか？イザナギが亡くなったイザナミを追って、死者の世界である「黄泉の国（よみのくに）」に行くお話です。この「黄泉の国」の描写は、横穴式石室内の様子からイメージしたのではないかとされています。

■ 発見された副葬品（ふくそうひん）

ナギジリ 2 号古墳では、これまでに須恵器や鉄鏃（てつそく）、耳環（じかん）とよばれる耳飾りが出土しています。これらは埋葬された人と共に納められた副葬品と考えられます。

横穴式石室は、入口の閉塞石をどかせば、後から別の人を埋葬することが可能です。これを追葬（ついそう）といいます。ナギジリ 1 号古墳では、出土した遺物の内容や年代から、少なくとも 3 回追葬がおこなわれたと考えられています。本古墳でも、最初の埋葬に伴うとみられる 6 世紀後半の土器のほか、8 世紀前半（奈良時代）の土器も見つかっており、1 号古墳と同じく追葬がおこなわれた可能性があります。

追葬する時は、先に埋葬されていた人の骨や副葬品を、石室の端に寄せたりして片付けてしまうのが一般的です。そのため、本古墳の石室の壁際や入口からも副葬品が発見されています。あるいは、盗掘者が落としていったものかもしれません。



3 個重なって見つかった須恵器の杯（つぎ）



表面に金が残る耳環（じかん）

■ 周辺の古墳と今後の調査

『下伊那史』には、ナギジリ 2 号古墳の下段の水田に存在したとされるナギジリ 3 号古墳や、その南東方向にあったといわれる石原古墳についても書かれています。しかし、残念ながら今回の調査範囲内ではどちらも確認されませんでした。長い年月の中で、今はもう消滅してしまったのかもしれませんが、失われていく古墳が数多くある中で、ナギジリ 1 号古墳や 2 号古墳は、私たちに古い時代のことを教えてくれる貴重な存在といえます。

ナギジリ 2 号古墳は、現在石室の床面の調査を開始したばかりです。ナギジリ 1 号古墳の調査では、須恵器や耳環のほかにも鏡や馬具、勾玉などの玉類が出土しました。本古墳でもこうした遺物が出土する可能性があり、今後の成果が目まぐるしく注目されます。調査はもう少し続きますので、ご協力よろしくお願いいたします。

長野県埋蔵文化財センター
飯田支所
〒395-0151 飯田市北方 297-5
TEL:0265-49-0736
<http://naganomaibun.or.jp/>